

フィリピンとの友好を一層深めよう！

——年次大会、日比親善会議を契機として——

過般の年次大会には、R I 会長代理としてベンチャミン M・カンボマーネス氏と御夫人の御出席をいただき感銘を深くいたしました。その折りに、マニラ RC 会長より会長代理に托して井田ガバナーに、大会祝辞と共に「すでにいくつかのプロジェクトにより結ばれている両国のロータリークラブのより親密な友好の掛け橋を築こう」との懇篤なメッセージをいただきました。

更に、11月19日～21日塩原町で第4回日比フレンドシップ ワークショップが、フィリピンより7地区58 RC、日本20地区92 RC、台湾2 RC、韓国1 RC、合計29地区153 RCの参加を得て盛大に有意義に開催されましたが、就中 R I 会長エレクトマット・カパラス氏の基調講演は非常に格調高いものであったと、当地区からの出席者香月 孝君（佐賀 RC）は感銘を語っております。

このように、日比両国ロータリーの関係が非常に身近かに感じられる思いがします。この機会に、参加を求められている3つのプロジェクトを紹介いたしまして各位の積極的なご協力をお願いいたします。

1. マカロブ ロータリー基金財団プロジェクト

フィリピン大学ロス バニョス、熱帯農業トレーニングセンターでは多数の大学院生が、それぞれの国を飢餓と貧困から救うべく各国政府或は民間団体の奨学金給費生として真摯な学業を続けております。

当プロジェクトは、これら大学院生たちに安い料金の寄宿舎を提供するため50室のビル2棟を建設、運営することを主目的として第382地区の3 RC が設立した財団です。

建設は1985年4月に着工し、1986年の半ばに完成する予定ですが、その建設資金(50万ドル×2棟)は、自己資金のほか世界各国のロータリークラブ、ロータリアン個人、企業財団の参加を歓迎しております。

寄付は金額は U. S. \$ 10,000、2,000、1,000 の3種類で寄付者の名前は、冠名の部屋、又は「ウネール オブ フレンドシップ」に刻印され、感謝の盾が贈呈されます。

なお、当財団の諮問委員会議長は、昭和42年11月11～12日、佐賀市で開かれた第370地区(全九州)年次大会に R I 会長代理として御出席されたフランシスコ C・デルガドー氏(R I 元副会長)であり、そして、地区ガバナーは向笠広次氏(R I 元会長)でありました。

2. 「心臓を救い 命を助けよう」プロジェクト

同国では、心臓病が死亡原因の第2位を占め、毎年10万人あたり63.3人が倒れております。マニラ RC では、これらの人々の「心臓を救い 命を助ける」ため、クラブ内に同名の資金ファンドを設け、入院費や手術代などの自己負担ができない患者のため「一人あたり U. S. \$ 1,200 の費用援助」を行っております。

このファンドを充実させるため善意の方々のご寄付をお願いしております。

3. フィリピン ロータリーセンター建設プロジェクト

第381地区の事業として現在建設中ですが、たまたま、場所が旧日本人居留地パコ駅前前のディオラ広場であり、ここには1971～72年度第366地区年次大会を記念して日比親善のため高槻ロータリークラブの協力により建設された「高山右近の像」があります。

この様な次第で、今後「日本一比国親善公園」として、像の保存及び公園管理ともロータリーセンターの運営に含めて行う計画です。

しかし、国内経済事情の悪化及び資金調達難のため200万ペソ(日本円3,000万円)の協力援助をお願いします。

後援御寄付額は U. S. \$ 1,000、500、200、100 の4種類であります。

(ガバナー事務所に資料がありますので、ご希望のクラブはお申し込み下さい)